

1(火)ミニデイ(10時)	燃やせるゴミ	
2(水)	缶・ペットボトル・燃やせないゴミ・有害ゴミ	
3(木)祝日:文化の日		
4(金)	燃やせるゴミ	
5(土)	古紙・衣類・ビン	
6(日)		
7(月)【老】健康体操(10時)		立冬
8(火)	燃やせるゴミ	旧10月15日
9(水)【老】カラオケ(14時)	缶・ペットボトル	
10(木)		
11(金)	燃やせるゴミ	
12(土)	古紙・衣類・ビン	
13(日)		
14(月)【老】健康体操(10時)		
15(火)事務委託者連絡会議	燃やせるゴミ	
16(水)	缶・ペットボトル・燃やせないゴミ・有害ゴミ	
17(木)		
18(金)	燃やせるゴミ	
19(土)	古紙・衣類・ビン	
20(日)		
21(月)【老】健康体操(10時)		
22(火)	燃やせるゴミ	小雪
23(水)祝日:勤労感謝の日/【老】カラオケ(14時)	缶・ペットボトル	
24(木)		旧11月1日
25(金)	燃やせるゴミ	↓シマダカラ芸術祭【開幕】 《12月4日(日)まで》
26(土)	古紙・衣類・ビン	
27(日)		
28(月)【老】健康体操(10時)		
29(火)	燃やせるゴミ	
30(水)	缶・ペットボトル	

サトウキビ農家の皆様へ

さとうきび収穫する畑の周囲の

草刈りは、きちんと草を刈って下さい。

境界がわかるようにして下さい。

【製糖工場からのお願いです。】

火の用心!!

これから冬にかけて火災が発生しやすい時季を迎えますので気を付けましょう。

【3つの習慣】

- ・寝たばこは、絶対にしない、させない
 - ・ストーブの周りに燃えやすいものを置かない
 - ③こんろを使うときは火のそばを離れない
- コンセントはほこりを清掃し、不必要なプラグは抜く

うるまシマダカラ芸術祭

左記の日程において、伊計、宮城、平安座、浜比嘉の集落内を会場としたアート展が行われます。期間中は外からの来島者が増えますので、集落内での車の運転は、人の飛び出しに注意して下さい。

【日程】 11月25日(金)～12月4日(日)

ゴミの分別収集を守りましょう。

☆火・金曜日(毎週)

・燃やせるゴミ(指定袋)

☆水曜日(毎週)

・缶(かごに入れて)
・ペットボトル(指定袋)

☆土曜日(毎週)

・古紙(紙ひもでしぼる)
・衣類(指定袋)
・ビン(かご、バケツ)

☆第1・3水曜日

・有害ゴミ(かご、バケツ)※電池・電球・蛍光灯など
・燃やせないゴミ(指定袋)

※われたゴップ、電球などは紙で包み、「ワレモノ」と書いて指定袋で出す。

☆ゴミは決められた日に出しましょう。



憩いの家 集合 10/16 (日)



ビーチ駐車場へ伊計、宮城集合



伊計大橋 (伊計側) 集合



海中道路 50 周年記念ウォーキング出発式

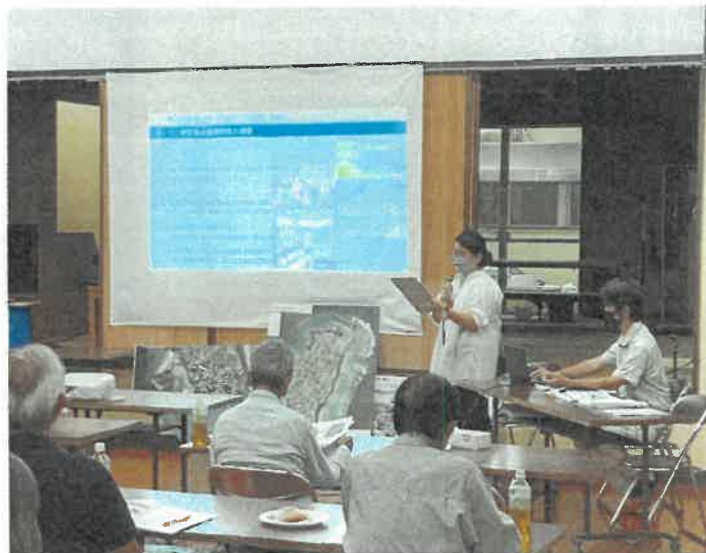


式典会場、海中道路平安座西口



県、うるま市長、市議会議員、招待客ら

うるま市伊計島景観重点地区（案）住民説明会 10/13（木）



ミニデイ 憩いの家 10/4（火）



うちなー地域づくり大賞受賞団体

伊計自治会

奨励賞

住民による、住民のための自治運営！
独自の取り組みで、地域特性を活かしながら課題を解決。



車で行ける離島として、県民や観光客のドライブスポットとして有名な伊計島を活動拠点にしている【伊計自治会】。さとうきび畑が広がり、のどかな時間か流れる人口約250人ほどの区域になる。うるま市と那城伊計区の活性化と福祉の向上を図る目的で、アメリカ統治下時代に設立された。地区内には多くの人々が訪れる伊計ビーチをはじめ、リゾートホテルやインターネットを活用した通信制高校がある。ホテルや学校については地域や自治会、区民の意見を尊重し、理解を示すことを条件に受け入れており、良好な関係が保たれている。また、区報公民館だよりではほぼ毎月行われる自治会行事を紹介し、

*風通しの良い自治体制を構築している。

自治会の知名度向上につながった、「区民が主役の自治会」による活動

2022年には、島内の拝所荒らしやオーバーツーリズムに対処するため、4回のワークショップや住民アンケートを経て伊計島憲章を制定し、区民総会において承認された。

また、島の将来を思い描いて先人がやってきたことを受け継ごうと、長らく休止していた区の観月会や区民運動会を約29年ぶりに復活させて、移住者と既存住民同士の交流促進を図るとともに、島から出て行った出身者にも関心を持たせることで、帰省やリターン等につながるよう活動をしている。

約5年前から小麦栽培を復活させて、善先の収穫時には、移住者と区民との交流を目的に大人から子どもまで、麦を刈り取る収穫体験を行っており、島の行事として定着している。

さらに、昨年、島の入り口から北側の海岸に立地するホテルまでの市道約1.5キロの道路沿いにヒマワリ約10万輪を植え、通称「フワロード」と呼ばれる取り組みをスタートさせるなど、様々な取組の継続による島の活性化を図っている。

カテゴリー

地域の魅力発見／文化・伝統継承／観光・地域交流

住所 うるま市与那城伊計237番地

電話番号 098-977-7373

設立 1966年4月

人数 15名

主な活動 麦づくりや共同店の存続維持に向けた取組
島の環境・文化を守る「伊計島憲章」の制定と普及浸透

利用施設 ふるさとうるま自治会活動応援事業
令和3年度 地域活性化助成事業

受賞歴 平成21年度「沖縄、ふるさと巨選」業務部門認定

これからの自治会モデルとしての発展性に期待

市や企業まかせではない、自分達で地域の活性化の方法を考える自治性を重んじ、移住者の受入等も市ではなく、自治会が主体的に考えていく方針を持っており、他の過疎地域の参考となる発想がある。その一例として、今年、「伊計島憲章策定」の取組を新聞報道で知った本部町瀬底自治会が、麦づくりの経緯等について学びに来ている。瀬底島においては、大型リゾートの建設や一周道路の開通に伴い、様々な課題が出てきているとこのことから、過去の当該地区の状況と類似する点も多いことから、他地域にとつての模範的な取り組み事例として期待される。



自然とともに生きる伊計島を後世に伝えるために

「引き継いでいくこと」の大切さと「変わっていくこと」の重要性を守りながら、うるま市と那城伊計区の住民、区民を増やすこと。そうすることで、地域は栄え、次の世代へとこの地が受け継がれていく。そのためにも、誰からも見ても魅力的で注目に値する活動を続けていくことが肝心となる。

今まで培ったノウハウは、必要とするところには提供したいとして、伊計地区の発展がうるま市の発展、強いことで沖縄県、そして日本へと全国に波及していくことを目指す。

